



Title	ダイアローグの快楽：オイラのぴょん吉編
Author(s)	尾崎, 大助
Citation	臨床哲学のメチエ. 2004, 13, p. 22-23
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/71169
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

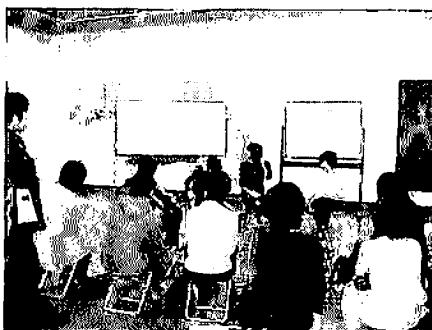
ダイアローグの快楽
～オイラのひょん吉編～

尾崎大助

本來ならざる企
画でカフトンを運営し
た after 5 art の立場
から、私は極くべき
かもしません。し
かし、私は after 5
art を通じて自分なり
のアートとの距離を
探りたい、そしてそ
れを通じて作品との出会い、企画との出会い
を、ひとの出会いを満喫したいと思っています。
ですから、今回出来たのができたダイアロー
グの思想を以て「超VJ」として、私らの音楽に
かえたいと思います。

「VJは私じゃない誰かがいればいいのに」
こと最近、作品を回の前にしてしません。他の思
いとが私にはあります。これは私の友人のやし
やのせいではないと思います。なぜなら、十月
十六日以来、そう思うようになったからです。
きっと、ダイアローグのせいだと私はふんでい
るのです。

一人で作品と向きあうとき、だんだん作品が
ら受ける感じが変化する、ってなことはよくあ
りました。ずっと作品の前にいる、ほんの
ちょっとした柔度とが素材の質感に気が付いて、
作品が少し違って見える。こんな経験です。



作品を
変容させ
ていく快
楽。作品の
前に長い
間たちど
まること
のできる
比較的暇
な人だけ
が味わえ
るであろ
うこのさ
やかな
快楽が、私

がアートから逃れられない謎の一つでした。

作品が変容させられていく快楽。ダイアロー
グは新しい説を示唆するので、私をより逃れ
られなくしたのです。

それは野村さんの作品が、ある瞬間に自の
は戦争の悲惨に、ある瞬間に火の熱さに、ある瞬間に
は鐵臭さに、ある瞬間に色そのものに変
容させられていく過程です。そしてまた、それ
は私じゃない誰かの発言のたびに、そのつど私
にとっての作品が変容されていく過程です。そ
れは私にとっての作品を、私じゃない誰かの発
言の働きかけに委ねる気ままな過程です。そし
て同時に、そんな気ままな私の発言が、私じゃな
ました。

それこも國から、ダイアローグの快楽がま
してくるほど、キャッチボールが中断する大暴

い誰かにとっての野村さんの作品に働きかけて
いるかもしない不思議な交流です。

一人で作品と向かいあうときには作品が変容し
ていく快楽と、ダイアローグで感じた作品が変容し
容されていく快楽との違いが私は国ででき
ません。とにかく、違ういます。望んで田舎にな
てみんなでかるキャッチボールしていく違うします。
マスターーションとセックスくらい違うします。
私じゃない誰かの投げた球が私の位置に働き
かけて、その働きかけられた位置から私が誰か
の位置に働きかけること。ちょっと意地悪して
いきなり誰かがかけて速い球を投げると相手が
びっくりする。その相手がおもいつきり速
い球を投げかえしていく。その後、してやつ
たりって顔をすること。田の中心にフライを投
げたら誰かが落とす。壁に繋げかけた。壁
あてでは経験できないことが、田になつてみ
んなでするキャッチボールすると経験できる、
この違い。フェラチオされているときには、二
三つかなと思うこと。クンニしてくるときには
69でもちりもうとする。相手が体をくねら
せたのをきっかけに体位がかかる。マス
ターベーションでは経験できないことが、セック
スでは経験できる。この違い。うまくはいえませ
んが、そんな愉しみをダイアローグの中で感じ
ました。

それこも國から、ダイアローグの快楽がま
してくるほど、キャッチボールが中断する大暴

投を投げられたじー（投げたじー）場違じない」
ろを愛理せたじー（放棄したじ）なでて思へ
「オイーのひょん吉」（元根性ガエル）が人の胸に
は一回いのこせじるものですね。
タイヤ、ローカルでじづりがあつた。つこつこ
「オイーのひょん吉」を静止できず「飛び出した
発音も刺激的で激離でした。少しおつこうさん
すきた自分の発言に反省しつつ、次のタイア
ロークは「オイーのひょん吉」の勃起に頭をまか
せてもいいかもと思つてじます。そんなひょん
に思いをさせつゝ、感想をおわるい」といしよう
と思想します。

おぬれじこやか (after 5 art 現代藝術祭)

小学校の「おひばり水泳」（25メートルを泳ぐなし
子供のために）濡ぬれまき箇箇中止にわざわざ講業）で、
權力の恐ろしさを身をもって味わつたのをめつ
かかじ「現代藝術」をめつじる。せひなくしてカオ
イスギャラリーに知れど、after 5 art の別館」
扱われる。ンクリトベットたたのアホなごわやう
ん一トを頼むれよりむづね森田なーー感。（即
時）やねなー」今春から園田筑波大学の総合学科
認定（アベター）に認定。